

第3章 課題の整理

都市公園に関する課題と緑の機能からみた課題、計画実現に向けての課題をそれぞれ抽出し、整理します。

1. 都市公園に関する課題

都市公園面積の国の標準値は、市街化区域内では1人当たり5.0㎡であり、都市計画区域内では10.0㎡となっています。都市公園について、本市における現況の強み弱みを整理した上で、以下に課題を抽出します。

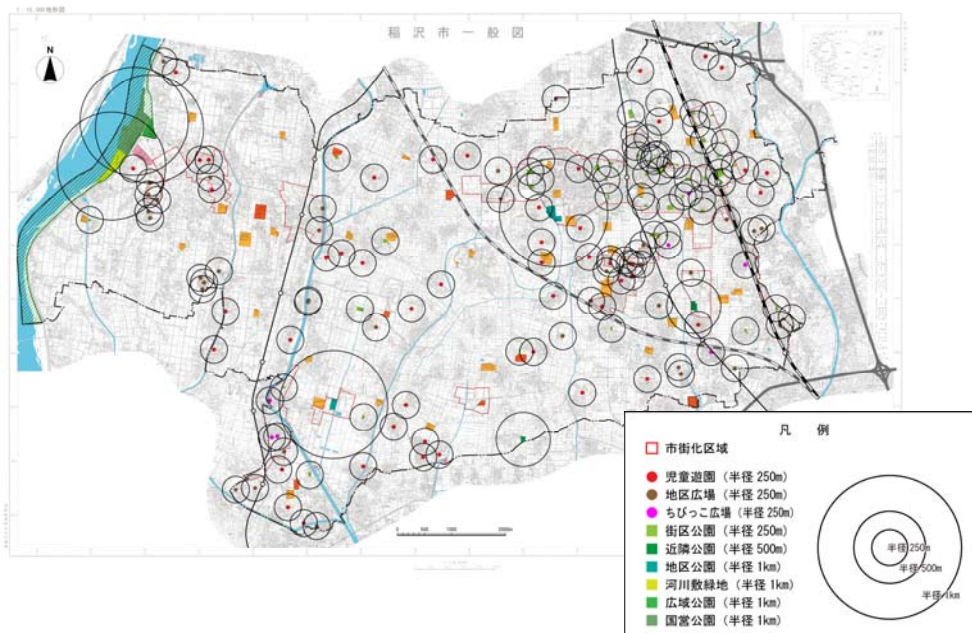
【強み】

○都市公園に公共施設緑地を含めた都市公園等については、市街化区域内及び都市計画区域内において、いずれも国の標準値を上回っています。

【弱み】

○市街化区域においては、都市公園のみの面積では国の標準値を下回っています。また、面整備されている区域の一部で、都市公園が不足している区域があります。

都市公園等の分布と誘致圏域の状況(出典:稲沢市資料)



【基本的課題】

○面的整備済みの地域において都市公園整備がされていない箇所では、新たな公園用地の確保が課題です。

○都市緑地法などの一部改正を受けて、新制度を活用して街のにぎわいの場や交流の場としても機能するように、市街化区域内の都市公園ストック活用が課題です。

2. 緑の機能からみた課題

「緑」の役割における5つの視点について本市の現況の強み弱みを整理した上で、以下に課題を抽出します。

また、5つの視点に加え都市公園の整備にあたっては、「視点⑥：選択と集中」の視点からも課題を抽出します。

視点①：都市環境の改善機能

【強み】

- 市域の約50%が農地として利用されており、地表面温度の抑制に寄与しています。
- 1,000㎡以上の保存樹林を持つ社寺が76箇所あり、二酸化炭素吸収に寄与しています。
- 木曾川をはじめ、青木川、日光川、三宅川、福田川など多くの河川が流れており、生物多様性の維持に寄与していると考えられます。
- 街路樹が市内で約41,000m整備されています。

【弱み】

- 農地は減少傾向にあります。
- 近年農地転用が増加傾向であり、2014(平成26)年度及び2015(平成27)年度には、年間20ha以上の農地が転用されています。
- 交通安全上、視認の妨げになっている街路樹があります。

1,000㎡以上の保存樹林の箇所数及び面積（2017(平成29)年度末）

	市街化区域		市街化調整区域		市内全域	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
保存樹林	8	2.87	68	12.88	76	15.75

農地法に基づく農地転用許可面積(ha) (出典:愛知県土地に関する統計年報)

2006 (平成18)年度	2007 (平成19)年度	2008 (平成20)年度	2009 (平成21)年度	2010 (平成22)年度	2011 (平成23)年度	2012 (平成24)年度	2013 (平成25)年度	2014 (平成26)年度	2015 (平成27)年度	計	転用率 (%)
13	15	17	8	9	7	8	13	20	21	131	3.4



尾張大國霊神社(国府宮)

【基本的課題】

- 二酸化炭素吸収能力の維持・増進、地表面温度の上昇抑制、生物多様性の確保のために、社寺林や田畑、河川の緑の保全が課題です。
- 民有地の緑の保全を図るためには、市民への情報提供や意識啓発などを行いながら田畑や社寺林の大切さを共通認識し、市民や地元企業との協働で進めていくことが課題です。
- 視認性に配慮した街路樹の維持・改修が課題です。

視点②：レクリエーションや健康増進の機能

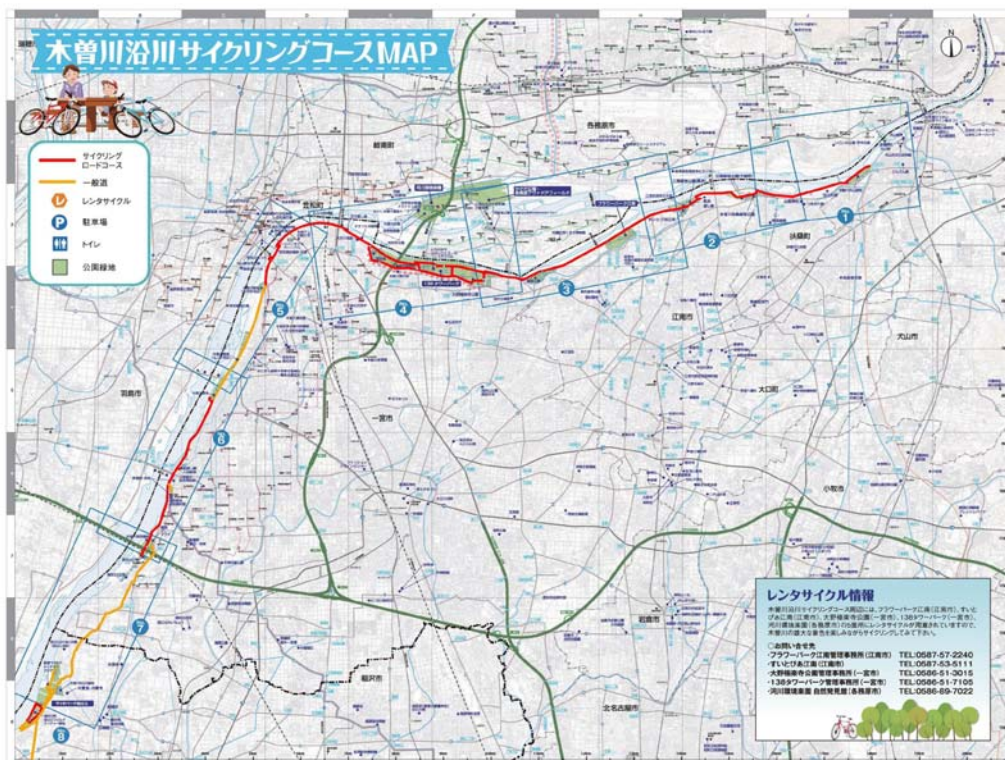
【強み】

- 市域西端の木曽川に面してサリオパーク祖父江が整備されており、珍しい河岸砂丘や松林とあいまって特徴的な公園として整備されています。また、ウインドサーフィンやサップヨガなどの水面利用によるレクリエーションが行われています。
- 祖父江の森や陸上競技場などスポーツが楽しめる施設が整備されています。
- 美濃路や岐阜街道などの歴史的な街道が存在し、桜ネックレスやウォーキングコースなどが設定されています。

【弱み】

- 市街化区域内では身近な公園が概ね確保されていますが、一部で公園が整備されていない区域がみられます。
- 木曽三川公園の拠点をつなぐサイクリングロードの整備が進められていますが、本市においては未整備です。

木曽川沿川サイクリングコースMAP(一部加筆)



【基本的課題】

- 市街化区域内の公園の整備がされていない区域では、既存の公共施設の有効活用や公園用地の確保の検討が課題です。
- 健康増進のために、スポーツが可能な施設などの維持及び活用が課題です。
- 木曽三川公園の拠点をつなぐサイクリングロードの整備が課題です。
- サリオパーク祖父江の施設間連携による魅力的なイベントの開催などにより、年間を通じた利用者数を増加させることが課題です。

視点③：防災機能

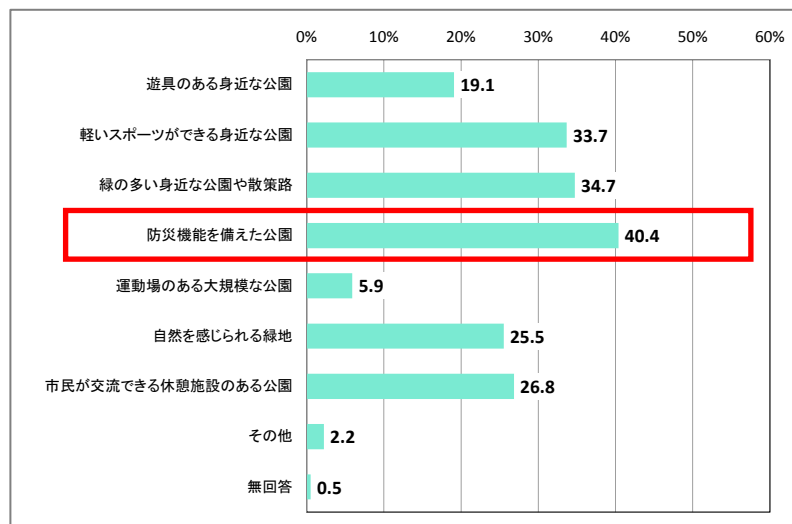
【強み】

- 市街化区域を取り囲む形で市街化調整区域が設定されており、一団のまとまりある農地が広い範囲にみられ、農業振興地域農用地区域が指定されています。
- 地震、洪水などの一時避難場所として、57箇所の公園が指定されています。
- 文化の丘公園など防災機能を有する公園が整備されています。
- 一時避難場所となっている公園の一部では、誘導灯やかまどベンチなどの防災関連施設を設置しています。

【弱み】

- 雨水の一時貯留や、遊水機能を持つと考えられる農業振興地域農用地区域の転用が増加しつつあります。
- 一時避難場所となっている公園でも、防災関連施設の設置されていないところがあります。
- 延焼防止などにも効果がある生垣設置については、補助制度の活用が少ない状況にあります。

市民アンケートにおける公園整備の意向



かまどベンチ

【基本的課題】

- 緑が持つ防災機能を維持するために、防風林、遊水機能を有する農地、地震時の延焼火災などに資する緑の保全が課題です。
- 一時避難場所となっている公園においては、防災関連施設の設置が課題です。
- 延焼防止などにも効果がある生垣設置を促進することが課題です。

視点④：歴史・景観及び観光資源の継承機能

【強み】

- 木曾川の水辺景観や松林、歴史的景観、社寺林などが市民にとって身近で主要な景観資源となっています。
- 「美しい愛知づくり景観資源 600 選」に選ばれた景観資源が市内に多くあります。
- 観光資源として、尾張大國霊神社(国府宮)、善光寺東海別院、祖父江のイチョウ、サリオパーク祖父江、矢合観音、桜ネックレスなどが挙げられ、社寺や伝統的な催事など歴史・文化に関わるものや、自然に関わる資源で多くの観光客を集めています。
- 稲沢桜まつり、へいわさくらまつり、いなざわ植木まつり、稲沢あじさいまつり、そぶえイチョウ黄葉まつり、いなざわ梅まつりなど、四季を感じることができる花と緑のイベントがあります。

【弱み】

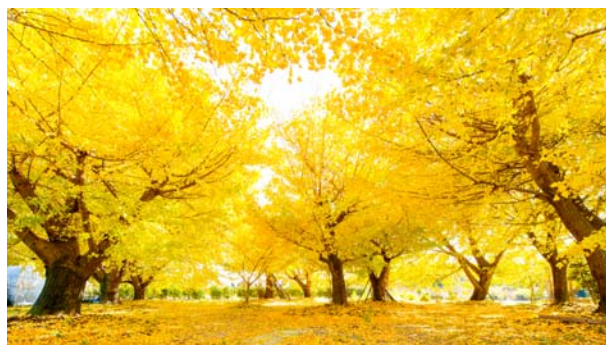
- 地域資源である祖父江のイチョウや、歴史的資源である史跡尾張国分寺跡などをテーマとした施設や公園の整備が進んでいません。

主なイベント

取組み例	主な実施主体
稲沢桜まつり・へいわさくらまつり	商工会議所・商工会
いなざわ植木まつり	市
稲沢あじさいまつり	市・市観光協会・商工会議所
稲沢夏まつり	市民団体
稲沢サンドフェスタ	市
稲沢まつり	商工会議所
そぶえイチョウ黄葉まつり	商工会
国府宮はだか祭	社寺
いなざわ梅まつり	市観光協会



平和の桜ネックレス



祖父江のイチョウ(山崎)

【基本的課題】

- 緑豊かな稲沢らしい風景を守るため、田畑、社寺林、松林などの保全が課題です。
- 地域資源や歴史的資源を活用した公園の整備が課題です。

視点⑤：市民協働

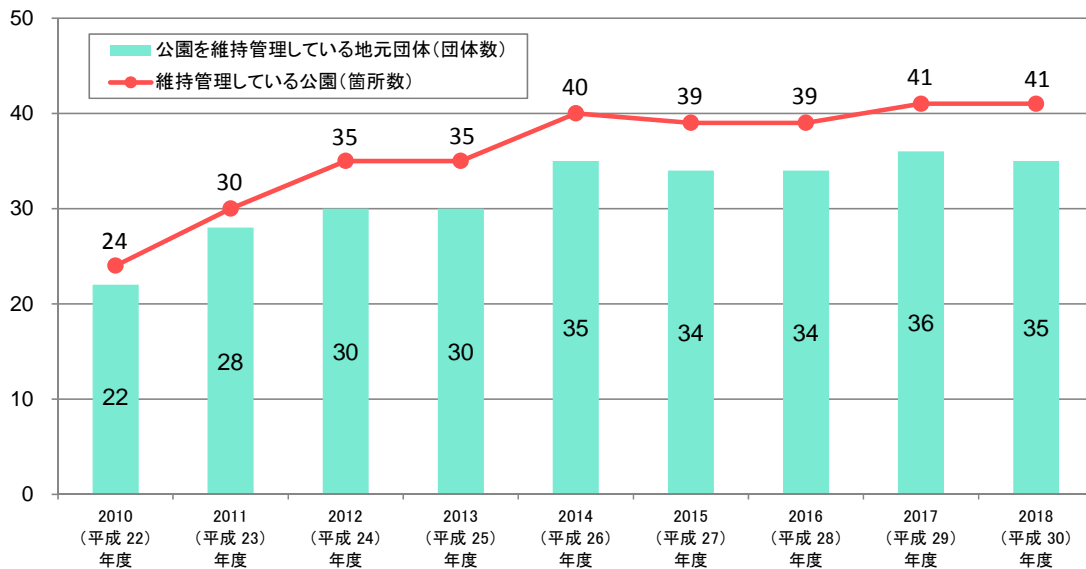
【強み】

- 多くの公園が地元団体(35 団体)により管理されており、道路などの公共の場所を市民団体や企業等が市と協力して美化活動を行うアダプト制度が運用されています。
- 植木の生産が多く、出荷本数は県内の8割を占めており、植木業者など緑に携わる人々が身近にいます。
- 市内の小学校では、みどりの少年団活動などを通して、緑の学習や、花壇、プランターの育成管理などが行われています。
- ビオトープながおかや下水道科学館などの既存施設を活用して、尾張西部生態系ネットワーク協議会や市民団体による環境教育が行われています。

【弱み】

- 一部の公園では地元団体による管理が進んでいません。
- 民有地緑化に関する助成制度の活用件数が少ない状況にあります。
- 緑づくりを支える植木業者などとの連携が進んでいません。

公園の維持管理を行っている地元団体数の推移



【基本的課題】

- 緑を生かした豊かな暮らしを実現するため、民有地緑化に対する助成制度の活用促進が課題です。
- 緑づくりを支える植木業者などとの連携が課題です。
- 現在公園などの維持管理の多くが地元団体により行われていますが、今後も地元団体数の増加に努めることが課題です。

視点⑥：選択と集中

【強み】

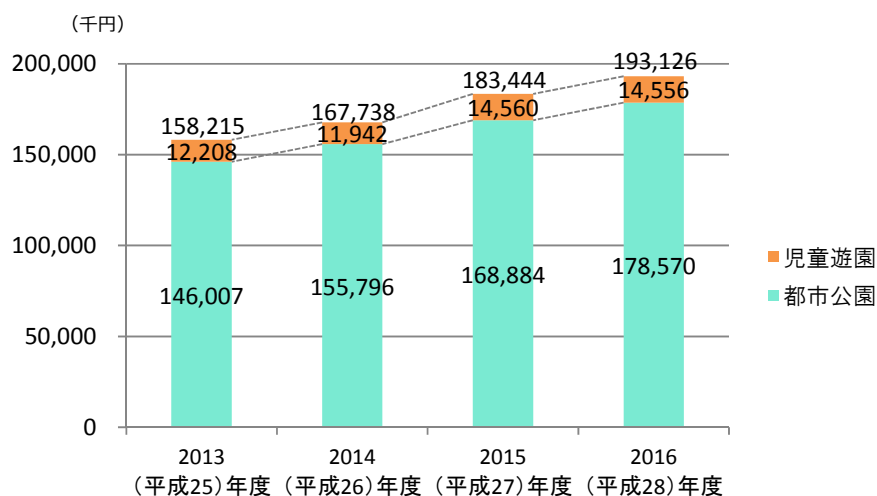
- 中心市街地にある稲沢公園は、周辺の荻須記念美術館と調和した公園として整備されています。
- 市内最大で特色のあるサリオパーク祖父江では、国営、県営、市営公園が一体として整備されています。

【弱み】

- 施設の老朽化が顕著で更新費用も増加しており、時代に合った地域ニーズとの整合が図られているかどうかの懸念もあります。
- 公園や街路樹などの維持管理費が増加しています。

都市公園及び児童遊園の維持管理費

	維持管理費（千円）			
	2013 （平成25）年度	2014 （平成26）年度	2015 （平成27）年度	2016 （平成28）年度
都市公園	146,007	155,796	168,884	178,570
児童遊園	12,208	11,942	14,560	14,556
合 計	158,215	167,738	183,444	193,126



【基本的課題】

- 公園・緑地や街路樹などの日常的な維持管理費や維持修繕費などが増大しており、今後も増加が懸念されることから、維持修繕や施設の補修・整備にあたっては、限られた財源の中で「選択と集中」の視点から優先度を設定することが課題です。なお、選択にあたっては、地域ニーズを十分に把握することが課題です。

3. 計画実現に向けての課題

都市公園及び緑の機能からみた課題を踏まえて、緑の多様な機能を持つ公園・緑地は都市構造上もその骨格となる施設であり、市民や来訪者など多くの人々の利用が予想できることから、市民が緑に触れる機会を増やし、緑の軸や緑の拠点を配置することで、市民協働で多様な緑を創出することが課題です。